



富山市立速星小学校

学校だより



令和7年9月12日発行

E-mail hayahoshisho@city.toyama.lg.jp

立山に 降り置ける雪を 常夏に 見れども飽かず — 第6学年 立山登山（宿泊学習） —

校長 新井 啓之



8月、第6学年の子供たちは、宿泊学習を兼ねた立山登山を行いました。

8月2日（土）、高度適応のため立山荘で宿泊し、翌日の3日（日）、合流した保護者ボランティアの方々とともに、児童102名、室堂から雄山山頂を目指しました。

上の画像は、当日の朝、室堂山荘付近から撮影したものです。前日の雨雲がすっかり消え、青空が澄み渡る絶好の登山日和となりました。

登山ガイドは、佐伯知彦さんに依頼しました。富山県人初のエベレスト登頂を果たされたアルピニストです。佐伯ガイドは、ペース配分や雪渓やガレ場の歩き方等、その場その場で的確な対応で子供たちを導いてくださいました。さらには、保護者ボランティアの方々にも多く参加していただき、安全対策を整えて臨むことができました。

一の越までたどり着いた子供たちは、ガレ場の急な稜線に慄くこともなく、全員で山頂を目指しました。「大丈夫？ちょっと休んで、水飲もうか。」「よし、がんばっていこう！ファイト！」。疲労感を感じているにもかかわらず、友達同士で声をかけ合い、励まし合い、労わり合って、一步そして一步と登る子供たちでした。

そんな中、肉体的にも精神的にも疲労が蓄積し、腰を下ろす時間が長くなり、集団から遅れる子供たちが出てきました。自分のペースで慌てず行動しながら、自分を奮い立たせ、がんばって三ノ越まで着きました。三ノ越をやおら出発しようとしたとき、山頂に到着していた子供たちが降り始める、という知らせが入りました。「どうする？ここでみんなを待って、一緒に下りる？」その子供たちに付いて行動していた私の問いかけに、その中の一人の子供が、「登る！自分で行けるところまで行きたい。お母さんと（山頂まで登ると）約束したから。」と腰を上げました。挫けそうになってもあきらめずに、文字通り歯を食いしばってやり遂げようとする様子に、私自身、強く心励されました。その子供は、約束通り山頂まで登り切りました。「お母さん、褒めてくれるかな・・・」照れたようにはにかんだ、その子供の横顔は清々しく、神々しくも感じられました。

“立山に 降り置ける雪を 常夏に 見れども飽かず 神からならし” 大伴家持が1,200年以上も昔に詠んだ歌のように、雄大な立山は今年も子供たちを歓迎し、そして、大きな自信、達成感を味わわせてくれました。